

がん社会 を診る

中川 恵一

国立がん研究センターが2011年のデータを分析した結果、日本人男性の62%、女性の46%が生涯で何らかのがんにかかるとされています。今や、男性では3人に2人近く、女性でも半数ががんになる時代となりました。日本人はがんになることを想定して人生を考えておいた方がよいでしょう。少なくともがんに関する最低限の知識を身につけておく必要があるはずで、2年目を迎えて、夕刊に場所を移したこの連載が少しでもその役目を果たせたらと思います。

さて、同センターによると、今年がんで亡くなる人の数は、昨年に比べ約4000人増の37万9000人、新たにがんと診断される患者である罹患(りかん)数は98万2100人と、昨年より10万人も増えると予測されています。がんはできる臓器ごとに別

がん想定の人生 考えよう

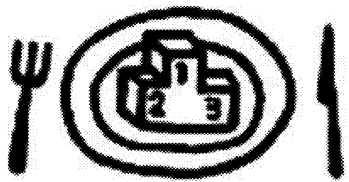
の病気といえるほど、なりやすい年齢も治療率も違います。今年、罹患数が多いとされるのは男性では前立腺がん、女性では乳がんです。前立腺がんは増加率が最も高く、昨年の3位からトップとなりました。日本人全体では、今年始めて大腸がんが第一位となりました。これら三つのがんは欧米人に多いがんで肉食など食の欧米化が増の背景にあるとみられます。

これまで日本人のがんの代表といえば胃がんでした。実際、私が生まれた昭和35年の男性のがん死亡の半分以上が胃がんによるものでした。しかし、今年始めて胃がんは罹患数トップの座を大腸がんに明け渡しました。冷蔵庫の普及など、衛生状態がよくなり、胃がんの主な原因となるピロリ菌の感染が減っている結果といえます。肝炎ウイルスの感染が原因の約8割を占める肝臓がんも減少傾向にあり、がんの種類が感染型から肉食型に変わってきたことが分かります。

がんによる死亡数のトップは依然として肺がんです。これまで高かった喫煙率が影響しています。たった一つのがん細胞が診断できる大きさ(1センチ程度)になるには10〜30年の年月がかかるため、喫煙率の低下の効果が出るまでには時間を要するのです。

ただ減少傾向が続いていた日本人の喫煙率が下げ止まりを見せています。次回はこの問題を取り上げます。

(東京大学病院准教授)



イラスト・中村 久美